

福山市加茂町の古墳出土資料

について

佐藤 一夫

ここに紹介する資料は、福山市加茂町下加茂中組に所在する円墳からの出土資料である。内部主体は箱式石棺で、勾玉2・管玉16・小玉189・刀子1が出土している。

この資料は、不幸な状態で出土し10年程知られるところではなかったが、1年前資料保管者が筆者に資料を呈示し、資料の報告を要請した。筆者も、芦田川流域の箱式石棺としては豊富な玉類をもつこと、加茂平野の古墳時代研究に不可欠な資料であることから報告の必要を感じ、ここに紹介する次第である。

位置と環境 (図-1)

この古墳は、福山市加茂町下加茂中組の丘陵頂部にある。古墳は、標高1284mの三角点がある位置で、加茂平野から掛迫にかけて眺望のよくきく地点である。資料保管者によれば、当古墳の南側は絶壁となり、すぐ北には大木のうわった高まりがありこれも古墳であるとのことである。

次に、加茂平野の古墳を概観してみたい。加茂川左岸の前期古墳をみると、石鎚山第1号墳(2)は、直径約20mの円墳で墳裾部に列石がめぐる。内部主体は竪穴式2基で、北側石室から斜縁二神二獣鏡1、勾玉5、管玉42刀子1、鈍2、鉄鎌14が、南側石室から銅鏃27、鉄剣1、刀子1、勾玉1が出土し4世紀後半と考えられている(注1)。

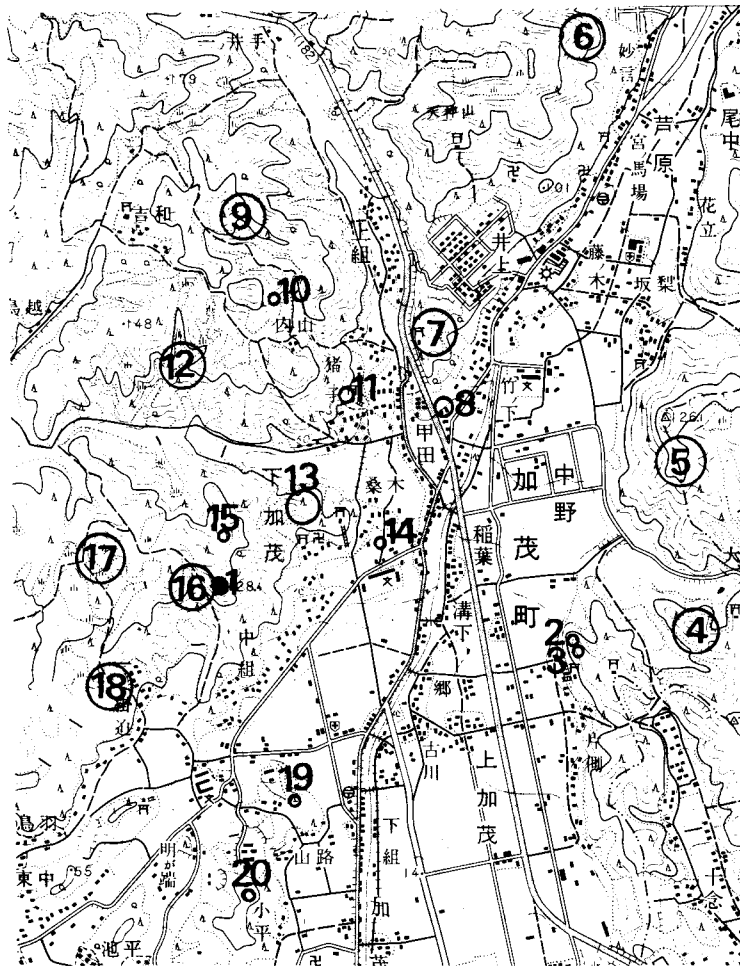


図-1 加茂平野の古墳分布図

- 1 当古墳
- 2 石鎚山第1号墳
- 3 石鎚山第2号墳
- 4 吹越古墳群
- 5 中野古墳群
- 6 妙言池古墳群
- 7 上組古墳群
- 8 岡遺跡
- 9 内山古墳群
- 10 水谷古墳
- 11 猪の子古墳
- 12 倉田古墳群
- 13 正福寺裏山古墳群
- 14 桑木古墳
- 15 下加茂古墳
- 16 草広古墳群
- 17 掛迫北古墳群
- 18 掛迫古墳群
- 19 セツ石山古墳
- 20 平の前東古墳

<1 : 25000 新市>

石鎚山第2号墳(3)は、直径約16mの円墳で、土
 塚と粘土槨の内部主体があり、土塚から内行花
 文鏡1、鏡鈕1、刀子1、鉈が出土し4世紀末
 ～5世紀初頭と考えられている。^(注2) 吹越古
 墳群(4)は8基からなり、3号墳は直径約13mの
 円墳で、粘土槨から鉄剣1、鉄鎌1、勾玉2、
 白玉144、管玉9が出土し5世紀前半と考えら
 れている。7号墳は直径約13mの円墳で、箱式
 石棺から鉄剣1、刀子1、管玉1が出土してい
 る。8号墳は直径約21mの円墳で、箱式石棺と
 石蓋土塚墓の内部主体で石蓋土塚より勾玉1、
 棗玉26が出土している。1号墳は直径約10mの
 円墳で、土塚から鉄剣1、刀子1、耳環1が出
 土している。4号墳は9×10.5mの方墳で、土
 塚から鉄剣1、刀子2、鉄鎌1が出土。5号墳
 は8×10.5mの方墳で、土塚から鉄刀1、鉄鎌
 5、刀子1を出土。6号墳は8×9mの方墳で、
 土塚を内部主体とする。2号墳は直径約14mの
 円墳で、土塚から鉄鎌15、大刀1、刀子1、耳

環2、須恵器8以上が出土し6世紀後半と考え
 られており、この順序に築成されたと考えられ
 る。^(注3) 中野古墳群(5)は実態は不明であ
 るが、丘陵尾根上に古墳が数基分布している。
 加茂川右岸をみると、妙言池古墳群(6)は、12基
 の古墳群で竪穴式石室を内部主体とする。^(注4)
 岡遺跡(8)は発掘調査の結果、幅2～3.5mの溝
 が検出され直径約20mの円墳の周濠から円筒埴
 輪が出土している。^(注5) 正福寺裏山古墳群
 (13)は、2基の前方後円墳からなり葺石・埴輪が
 検出されている。^(注6) 次に、後期古墳であ
 るが、分布状態、内容が今だ明確でない。しか
 し、終末期の古墳である猪の子古墳(11)がある。

内部主体について (図-2)

資料保管者によれば、内部主体は墳丘中央に
 あって、40cmほどの赤色土を除去すると黒色土
 中に東西に主軸をもつ箱式石棺があったそう
 である。図-2は、資料保管者らの作成した内部

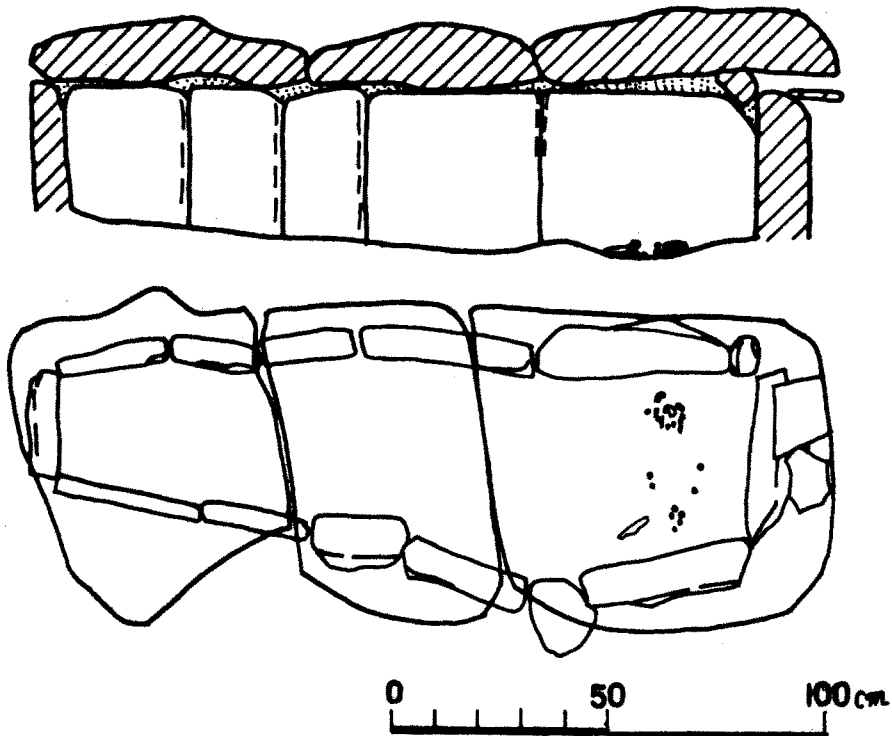


図-2 内部主体の略測図(網目は粘土)

主体の略図で、図面右側が東にあたる。

この略図によれば、箱式石棺の内法は長さ約1.6m、幅東方で約0.36m、西方で約0.22m、深さ約0.35mである。石は西方の小口に1枚、北側側石に6枚、東方小口に3枚、南側側石に6枚、蓋石3枚の19枚を使用している。北側側石をみると、厚さ6~10cm程の扁平な石を西側3枚は縦長に、東側2枚は横長に使っている。

蓋石は、厚さ15cmほどの石を用い、東側蓋石は約80×72cmの大きさである。また、側石と蓋石の間には粘土が充填してある。

遺物は東方から集中して出土し、東方が頭位であったと考えられる。勾玉・管玉は北側に寄って出土し、小玉は全体に拡がり刀子は南側に寄って出土している。

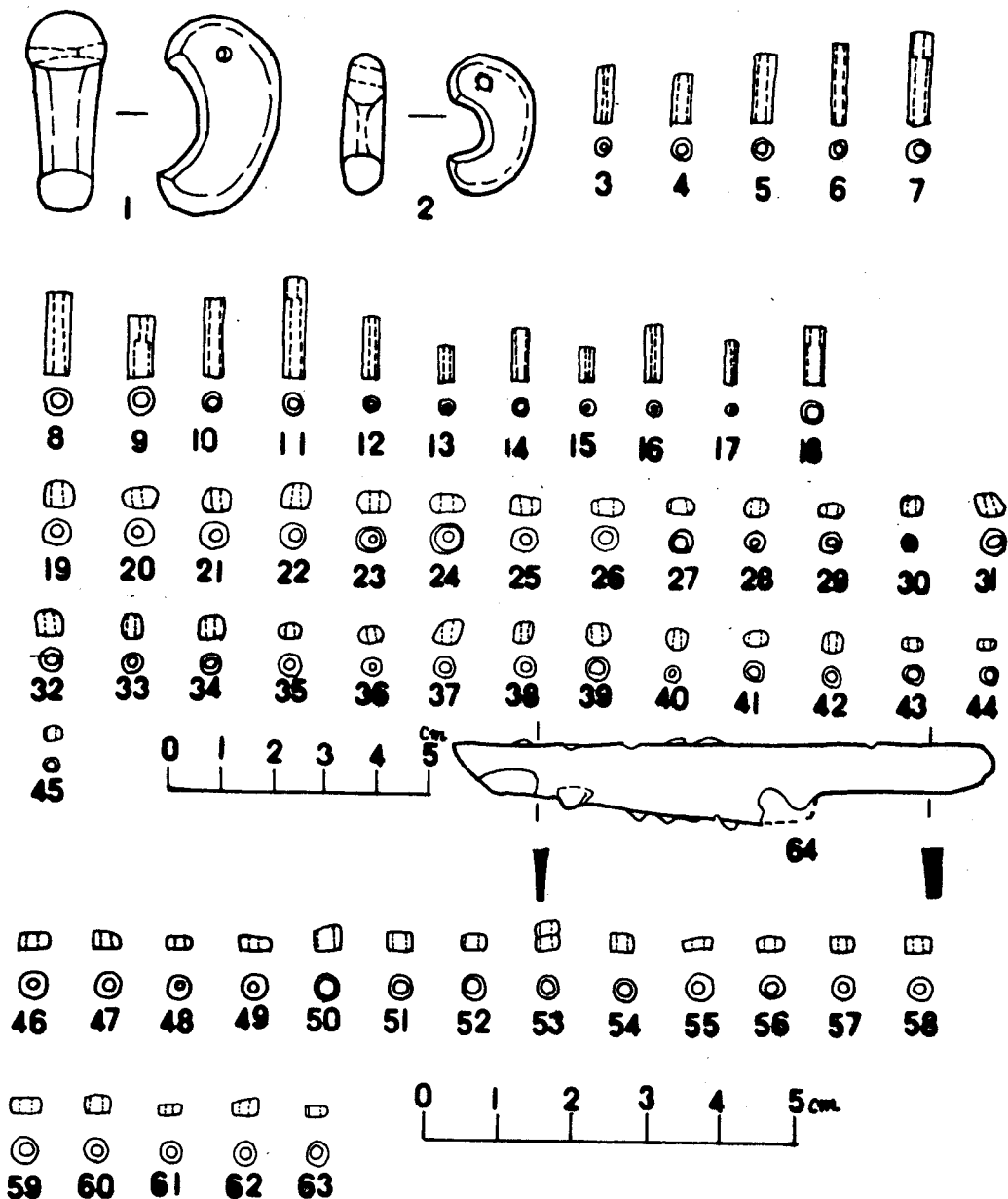


図-3 出土遺物実測図

出土遺物について(図-3、表-1)

当古墳から、メノウ製勾玉2、碧玉製管玉16、ガラス製小玉22、滑石製小玉162の玉類と刀子1が出土している。

勾玉(1、2)はメノウ製で、(1)は全長3.8cm、厚み1.5~0.9cmで径0.3cmの孔は両側からの穿孔、黄橙色を呈する。(2)は全長2.7cm、厚み0.8~0.7cmで径0.2cmの孔は片側からの穿孔、透明に近い黄橙色を呈する。

管玉(3~18)は全て碧玉製で、径0.3~0.5cmの細みであり、全長1~2cmの小型でもある。表面はよく研磨され、孔径は0.1~0.3cmで(7)・(9)・(11)・(18)は両側からの穿孔、他は片側からの穿孔である。色調は、淡い緑色から濃い緑色まで濃さで3段階に分れる。(18)は風化が著しく、白緑色を呈する。

ガラス製小玉(19~45)は、ほぼ同じ大きさで径0.2~0.45cmで体部中央がややふくらむ。すべて淡青色を呈する。

滑石製小玉(46~63)は、162個出土しているが、ほぼ同じ型式であるのでその一部について図化した。ほとんどが径0.3~0.4cm、孔径0.1~0.15cm、高さ0.15~0.3cmであるが、(53)のみ体部が2段となっている。すべて灰緑色で表面をよく研磨している。

刀子(64)は全体に錆化が著しい。刀身は長さ約7cm、幅1~1.5cm、厚み0.3~0.1cm、茎は長さ2.4cm、幅1cmである。

なお、図化した玉類の計測値を表-1にしている。

まとめ

以上述べたことをまとめると、

1. 当古墳は、加茂川右岸の標高128.4mの丘陵頂部にある。
2. 内部主体は、箱式石棺で墳丘中央に位置する。
3. 箱式石棺は、主軸を東西方向にもち内法で全長約1.6m、幅約0.36~0.22m、深さ約0.35mである。
4. 副葬品として、メノウ製勾玉2、碧玉製管玉16、ガラス製小玉27、滑石製小玉162、

刀子1が出土している。

さて、近年芦田川流域では丘陵に対する発掘調査や資料調査がすすめられ、地域ごとに古墳のあり方が明らかにされつつある。それらの成果をふまえ、当古墳について考えてみたい。

まず、当古墳は標高128.4mの丘陵頂部にあり、平地との比高は100m近くあり周辺古墳と較べてもかなり急峻な所にある古墳といえよう。また、この丘陵には下加茂古墳(15)・草広古墳群(16)があるが、分布状態・古墳数が把握されていない現在、当古墳が加茂平野を見渡す最良の地にあることだけ指摘しておきたい。

次に副葬品において玉類の豊富な点である。報告された芦田川流域の古墳では表-2・3にあるとおり、亀山第1号墳の790個に次ぐものである。亀山第1号墳は、粘土槨を内部主体とし表にあるように鏡をもたないが豊富な副葬品をもつ、神辺町道上地区の平野部に対する5世紀前半の首長墓と考えられる。また、当古墳は表山古墳・亀山第2号墳・大附古墳・後口山古墳・吹越第8号墳と同様に、鏡・武器類・農具類を副葬しない。このことと玉類が豊富であることが、この古墳の特徴ともいえるが、これが時期的なものか被葬者の性格によるものか、現状では明らかにしがたい。当古墳の副葬品をみると、管玉は細みの小型で古式であること、須恵器を副葬していないことから、一応この古墳の年代を須恵器導入以前と考えたい。また、加茂川右岸に首長権をもっていたと考えられる掛迫6号墳がこの古墳のある丘陵から西に派生した尾根上にあり、何らかの関係が考えられること、左岸に石鎚山第1号墳・同2号墳・吹越第3号墳と続けて営まれていることと考え合わせ、掛迫6号墳以前とも考えられる余地を残しておきたい。

最後に、近年の発掘調査は地域ごとの古墳のあり方を明らかにしつつある。ところで、地域における首長墓と考えられるものをみていくと、潮崎山古墳(新市町)は前方後円墳であるなら全長約30m、石鎚権現第5号墳(福山市)は前方後円墳で全長37.5m、掛迫6号墳は報告によれば前方後円墳で全長46.5m、石鎚山第1号墳

表-1 玉類計測表(単位:cm)

| 番号 | 種類 | 長・厚 | 幅・径 | 孔・径 | 材質 | 色調 | 番号 | 種類 | 長・厚 | 幅・径 | 孔・径 | 材質 | 色調 |
|----|----|------|------|------|-----|-----|----|----|------|------|------|-----|-----|
| 1 | 勾玉 | 3.8 | 1.5 | 0.3 | メノウ | 黄橙色 | 33 | 小玉 | 0.45 | 0.4 | 0.15 | ガラス | 淡青色 |
| 2 | 〃 | 2.7 | 0.7 | 0.2 | 〃 | 〃 | 34 | 〃 | 0.45 | 0.45 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 3 | 管玉 | 2.1 | 0.3 | 0.1 | 碧玉 | 浅緑色 | 35 | 〃 | 0.3 | 0.4 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 4 | 〃 | 0.9 | 0.4 | 0.15 | 〃 | 濃緑色 | 36 | 〃 | 0.3 | 0.4 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 5 | 〃 | 1.3 | 0.4 | 0.15 | 〃 | 緑色 | 37 | 〃 | 0.4 | 0.45 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 6 | 〃 | 1.5 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 | 38 | 〃 | 0.4 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 7 | 〃 | 1.75 | 0.4 | 0.2 | 〃 | 〃 | 39 | 〃 | 0.4 | 0.4 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 8 | 〃 | 1.55 | 0.5 | 0.2 | 〃 | 淡緑色 | 40 | 〃 | 0.4 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 9 | 〃 | 1.15 | 0.5 | 0.28 | 〃 | 緑色 | 41 | 〃 | 0.25 | 0.4 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 10 | 〃 | 1.5 | 0.4 | 0.25 | 〃 | 〃 | 42 | 〃 | 0.35 | 0.4 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 11 | 〃 | 1.9 | 0.3 | 0.2 | 〃 | 〃 | 43 | 〃 | 0.2 | 0.35 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 12 | 〃 | 1.2 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 | 44 | 〃 | 0.2 | 0.35 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 13 | 〃 | 0.7 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 | 45 | 〃 | 0.25 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 14 | 〃 | 1.05 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 | 46 | 〃 | 0.2 | 0.4 | 0.15 | 滑石 | 緑灰色 |
| 15 | 〃 | 0.65 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 | 47 | 〃 | 0.2 | 0.35 | 0.1 | 〃 | 〃 |
| 16 | 〃 | 1.1 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 浅緑色 | 48 | 〃 | 0.15 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 |
| 17 | 〃 | 0.85 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 | 49 | 〃 | 0.15 | 0.4 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 18 | 〃 | 1.15 | 0.4 | 0.25 | 〃 | 白緑色 | 50 | 〃 | 0.35 | 0.3 | 0.2 | 〃 | 〃 |
| 19 | 小玉 | 0.4 | 0.5 | 0.18 | ガラス | 淡青色 | 51 | 〃 | 0.2 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 20 | 〃 | 0.4 | 0.55 | 0.15 | 〃 | 〃 | 52 | 〃 | 0.2 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 21 | 〃 | 0.4 | 0.5 | 0.15 | 〃 | 〃 | 53 | 〃 | 0.4 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 22 | 〃 | 0.45 | 0.5 | 0.2 | 〃 | 〃 | 54 | 〃 | 0.2 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 23 | 〃 | 0.4 | 0.6 | 0.15 | 〃 | 〃 | 55 | 〃 | 0.15 | 0.4 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 24 | 〃 | 0.35 | 0.6 | 0.15 | 〃 | 〃 | 56 | 〃 | 0.2 | 0.35 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 25 | 〃 | 0.35 | 0.55 | 0.15 | 〃 | 〃 | 57 | 〃 | 0.2 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 |
| 26 | 〃 | 0.3 | 0.55 | 0.2 | 〃 | 〃 | 58 | 〃 | 0.2 | 0.35 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 27 | 〃 | 0.3 | 0.5 | 0.25 | 〃 | 〃 | 59 | 〃 | 0.2 | 0.4 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 28 | 〃 | 0.3 | 0.4 | 0.15 | 〃 | 〃 | 60 | 〃 | 0.25 | 0.35 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 29 | 〃 | 0.25 | 0.45 | 0.15 | 〃 | 〃 | 61 | 〃 | 0.15 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 30 | 〃 | 0.4 | 0.35 | 0.15 | 〃 | 〃 | 62 | 〃 | 0.2 | 0.35 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 31 | 〃 | 0.45 | 0.5 | 0.2 | 〃 | 〃 | 63 | 〃 | 0.15 | 0.3 | 0.15 | 〃 | 〃 |
| 32 | 〃 | 0.45 | 0.45 | 0.2 | 〃 | 〃 | | | | | | | |

表-2 芦田川流域の箱式石棺の出土資料

| 古墳名 | 所在地 | 鏡 | 玉類 | 武器 | 農工具 | その他 |
|---------|-----|-------|-----------------------------|-------------|---------------|--------|
| 玉比売塚 | 尾道市 | 変形文鏡 | 勾玉2・管玉6 | | | |
| 大田古墳 | 福山市 | 内行花文鏡 | 勾玉1・管玉21 棗玉2 | 鉄剣1 | | |
| 池下山1号墳 | 〃 | | | 鉄剣1・直刀 2 | | |
| 同2号墳 | 〃 | 鏡 | 勾玉2・管玉5 棗玉1・切子玉 1・小玉1 | | | |
| 同3号墳 | 〃 | | | 直刀1 | | |
| 同4号墳 | 〃 | | | | | 土師器 |
| 内水越1号墳 | 〃 | | | 鉄鏃 | 鉄鎌・鉄斧 鉈・刀子 | |
| 同2号墳 | 〃 | | | 鉄鏃 | 鉄斧 | |
| 同3号墳 | 〃 | | | 鉄鏃 | 鉄斧 | |
| 同4号墳 | 〃 | | | 鉄鏃 | | |
| 表山古墳 | 神辺町 | | 勾玉2・ソロバ ン玉56 | | | |
| 亀山2号墳 | 〃 | | 管玉 | | | |
| 大附古墳 | 〃 | | 管玉 | | | |
| 吹越7号墳 | 福山市 | | 管玉1 | 鉄剣1 | 刀子1 | |
| ○当古墳 | 〃 | | 勾玉2・管玉16 小玉189 | | 刀子1 | |
| 池の内2号墳 | 〃 | | | | | 須恵器・埴輪 |
| 本谷3号墳 | 〃 | | | | 刀子1・針1 | |
| 手坊谷2号墳 | 〃 | | | 鉄鏃 | 鉄鎌・ノミ 鉈 | 須恵器・埴輪 |
| 〃3号墳 | 〃 | | | | | 須恵器 |
| 〃5号墳 | 〃 | | | 鉄剣1 鉄鏃3 | | |
| 今岡Ⅰ(仮称) | 〃 | 珠文鏡 | | | | |
| 今岡Ⅱ(仮称) | 〃 | 鏡片2面分 | | | | |
| 石鎚権現8号墳 | 〃 | | | | 刀子1 | |
| 城山1号墳 | 府中市 | 珠文鏡 | | 鉄剣1 鉄鏃2 | 鉈1・ノミ形 鉄器1 | |
| 尾立山古墳 | 〃 | 獣形鏡 | | | 刀子 | |
| 山の神古墳 | 〃 | 内行花文鏡 | 管玉2・小玉36 | | | |
| | | 重圏文鏡 | 勾玉1・管玉8 小玉54 | | | 刀子2・針 |
| 高尾1号墳 | 御調町 | | | | | 葺石列 |
| 後口山古墳 | 〃 | | 管玉4・小玉3 | | | |

表-3 芦田川流域の玉類出土の前期古墳

| 古墳名 | 所在地 | ① | 鏡 | 玉類 | 武器 | 農工具 | その他 |
|--------|-----|---|-------------|----------------------|--------------------------------------|--------------------------|--------------------------------|
| 国成古墳 | 神辺町 | B | 珠文鏡 | 勾玉1・管玉2 小玉・白玉 | 鉄刀5 | 鉄鎌1・刀子1 | 有孔円板・ 須恵器・埴輪 |
| 亀山1号墳 | 〃 | B | | 勾玉67 管玉2 小玉721 | 鉄剣14・刀1 鉄鏃150< 短甲1・盾・ 矛3・槍4 | 鉄鎌2・鉄斧3 鉈、ノミ7 刀子13 | 筒形銅器1 石製模造品1 竪櫛17 砥石2 |
| 石鎚山1号墳 | 福山市 | A | 斜縁二神二 獣鏡 | 勾玉5 管玉42 | | 鉄鎌14・鉈1 刀子1 | |
| | | A | | 勾玉1 | 銅鏃5・鉄鏃27 鉄剣1 | 刀子1 | |
| 吹越3号墳 | 〃 | B | | 勾玉2・管玉9 白玉144 | 鉄剣1 | 鉄鎌1 | 土師器 |
| 同8号墳 | 〃 | C | | 勾玉1・棗玉26 | | | |
| 掛迫6号墳 | 〃 | A | 三角縁神獣鏡 | 勾玉・小玉 | | | |

※ 表中①は内部主体を示し、A - 竪穴式石室 B - 粘土槨 C - 石蓋土塚と略した。

は円墳で径約20m、同第2号墳は円墳で径約16m、亀山第1号墳は円墳で径約28mである。
これらの数値をみるならば、芦田川流域では4～5世紀に50mを越える首長墓を創り出す首長権力はなかったものといえる。また、これらの古墳が同一丘陵で連続して築造された古墳群の中での1つでありながら前後の首長墓を見出しにくいという状況である。このことは、芦田川流域の首長権は脆弱なものであり、同一集団による首長権の継承はほとんどできなかったのではなかろうか。もし、上記のことが許されるなら、当古墳は加茂川右岸において掛迫6号墳以前の首長墓の可能性をもつ古墳といえまいか。しかし、鏡をもたないこと、箱式石棺であることから左岸の石鎚山第1号墳・2号墳と比べ弱小さは否めないものである。

おわりに、紹介した資料は専門研究者による出土であるため、小玉など数量はもっと多かったと考えられるし、細部について不明な点が多いことは残念である。しかし、これだけの

副葬品を持ちながらこの古墳が自己主張でかなのは、まさに不幸な出土であるからである。

この古墳を再び発言できない骸にしたのは何だったのか、あらためて文化財保護を訴えたい。

注

- (1) 広島県教育委員会・(財)広島県埋蔵・文化財調査センター『石鎚山古墳群』1981
- (2) 同上
- (3) 同上
- (4) 広島県・岡遺跡発掘調査団『岡遺跡発掘調査報告書』1972
- (5) 同上
- (6) 同上
- (7) 広島県教育委員会『県営駅家住宅団地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告』1976によれば、池の内3号古墳より樽形須恵器が出土し5世紀後半と考えられている。
- (8) 脇坂光彦「広島県芦品郡潮崎古墳について」

- て』『古代学研究』90 1979
- (9) (財)広島県埋蔵文化財調査センター
『石鎚権現遺跡群発掘調査報告』
1981
- (10) 掛迫古墳調査団「備後掛迫古墳」『芸備
文化』第5・6合併号 1956

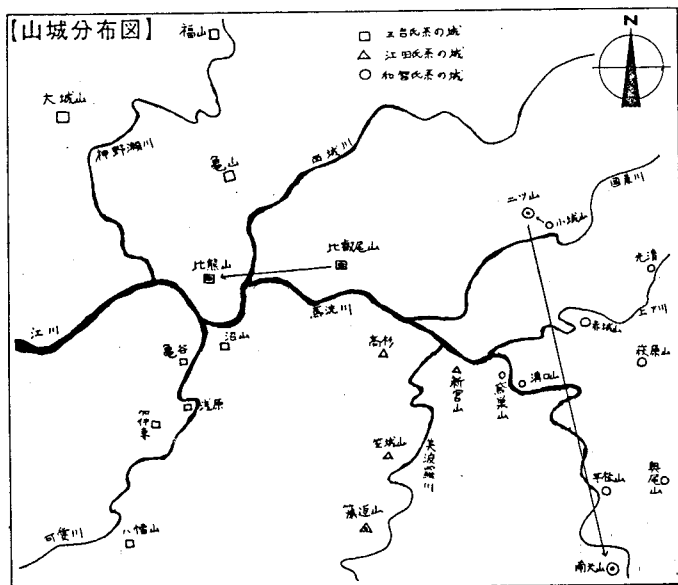
(11) 広島県教育委員会『亀山遺跡- 第2次発
掘調査概報-』 1983

(福山市木之庄町40番地の3)

県北の山城

“戦争のための山城”

新 租 隆 太 郎



にかけて三吉氏関係の山城、三次市塩町から南の三若町にかけて江田氏の山城、双三郡吉舎町を中心に三次市和知町にかけて和智氏関係の山城と、地域的に大別することができる。

この分布状態は地理的にみると、三次盆地に集中する江の川のいくつかの支流に沿っている。また、山城の占地、構造はその山城の築かれた時代によって相違する。

【鎌倉時代】

鎌倉幕府の成立により、源氏政権は全国に守護・地頭の配置を行なう。その任にあたる武士は代々源氏方の家来として従っ

県北には数百の山城址がある。三次市、双三郡内でもおそらく百箇所は下らないであろう。それらは全て鎌倉時代から戦国時代にかけて築かれたものである。中には中国縦貫道等の工事によって消滅したものもある。築城の年代も城主の名前も伝わらない山城も数多くある。

その分布状態は、中世期の三次地方における三吉氏・江田氏・和智氏の勢力範囲を考えるひとつの手がかりになる。三次市の中心部から西

たもの、源平合戦での戦功で恩賞にあずかったもの、いわゆる関東御家人と呼ばれる武士である。その中でも西国には有力な御家人が選ばれた。それは西国が平家一門の本拠地であったであろう。

その一人、三次郡の地頭職として移住してくる佐々木氏は、その出自を明らかにしないが現在の畠敷町に本拠を構えた。今では何の遺構も伝わっていないが、「殿敷」の古地名を伝える